

組合員の皆様がもっと身近に感じられる 組合を目指して



組合長挨拶

組合員の皆様には、組合の事業・運営等にご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

世界に誇る「北アルプス」の麓、当組合は、組合員の皆様の森林の整備、松くい虫等被害対策、クマなどから人を守るための緩衝帯整備、減災のための治山事業、脱炭素のための再生可能な自然エネルギーとしての木質バイオマス燃料チップの生産等の事業を行っています。

また、当地域の特徴である豊富な広葉樹の永続的利活用を可能とする循環型林業の実現と、優良広葉樹等付加価値の高い木材の生産・販売による広葉樹林業の確立・再生を図るため、一昨年度から、大町市社地区の組合員の皆様の山林において「農林中金森林再生助成事業」による実証を行っているほか、国立研究開発法人（NEDO）の助成を受け、伐採時、山林に残置していた枝条や広葉樹の早生樹を、化石燃料に替わる新たな燃料ポテンシャルとして開拓・利用する「エネルギーの森」実証事業にも取り組んでいます。

自然豊かな当地域の森林は水源涵養機能を持ち天然水を育むとともに、成長時にCO₂を吸収し、製材された板などはCO₂を固定する機能を有しています。当組合は、組合員の皆様と一緒に、森林整備、木質バイオマス燃料チップの生産・供給等の事業を通して、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現と、子供達が未来にわたり安心して暮らせる「脱炭素社会の実現」に貢献してまいりますとともに、こうした組合の活動・事業を組合員の皆様にもっと近くに感じていただけるよう、事業現場の見学会の開催など、皆様の声を直接お聴きする機会を多く作ってまいります。

また、今年度は、5年に一度の「組合事業経営計画」及び「補助金返還等支払い計画」の見直しを行う年です。組合経営は依然として厳しい状況が続いていますが、地域に期待、信頼される組合として地域の森林づくりを推進していくためには、補助金等返還債務の負担軽減がどうしても必要です。計画見直しに合わせ、県に対して引き続き支援を要請してまいります。

山・森林への関心が薄くなる山離れが全国的に進んでいますが、今、先代から引継がれ、守って来られた山・森林資源がフル活用される時代が目の前まで来てます。山を諦めない、次に引き継いでいく、子供たちの未来のためにも！ 森林組合と一緒にできることから始めましょう。

最後に、組合員及びご家族の皆様がご健康でご活躍されることを心よりご祈念申し上げ、ご挨拶いたします。

北アルプス

森林組合だより

Forest

北アルプス森林組合

大町市平 10788-1

電話 0261-22-0711

FAX 0261-22-4380

E-mail: alpstfa@
jforest-kitaalps.jp

令和7年7月発行



長野県SDGs推進企業
に登録されています



代表理事組合長
割田 俊明

組合の新たな挑戦 ～広葉樹材の活用に向けた取り組み～

NEDO事業

テーマ① 新たな燃料ポテンシャル(早生樹等)を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業

本テーマでは、旧薪炭林の短伐期燃料材生産モデルを積雪寒冷地域でも20年以内に確実に循環できる手法を確立するとともに、作業時の生産性を調査して、低コスト高生産性の萌芽更新手法を開発することを目的としています。具体的には、根株径(30cm未満、30cm以上)、根株高(低切り限定)及び根株形(水平切り又は根株形)の差異による萌芽更新後の資源量の変化並びに萌芽整理の有無による萌芽更新の確実性及び経済性を2023～2028年度までの6年間かけて組合所有林(大町市大町居谷里)で検証していきます。



調査及び選木



伐倒



集材・造材



株伐り直し



切株例：根株形



半年後(萌芽)

テーマ② 木質バイオマス燃料の安定的、効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業

本テーマでは、地域森林資源の特徴である7割を占める広葉樹や、燃料用チップとしては利用されてこなかった林地枝条・剪定枝を実用的なレベルの燃料チップにするための手法を開発することを目的としています。具体的には、「林地枝条等の燃料チップ化技術の確立」、「広葉樹チップ粒度最適化」、「チップの乾燥技術の確立」の3項目を実証試験の対象としています。

【林地枝条等の燃料チップ化技術確立の実証状況】



枝条集積



枝条破碎



チップ排出

チップパーのスクリーンの目のサイズを変え、規格に合ったチップを、最も効率的に切削する手法を実証しています。



枝条チップA



枝条チップB



参考：木質チップ

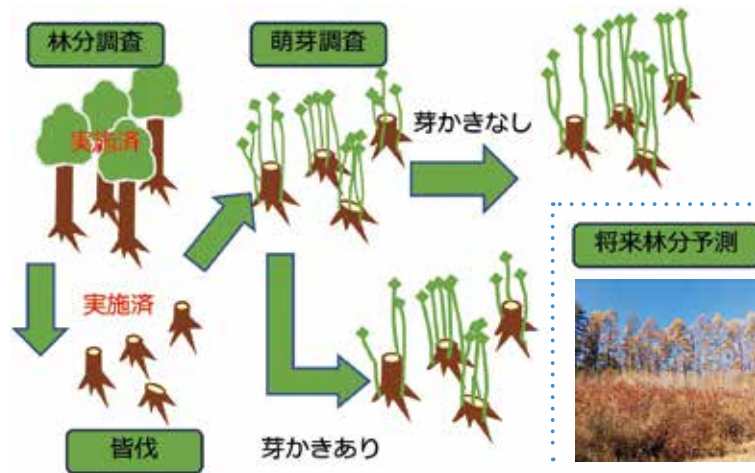
今後の取組み

テーマ① 新たな燃料ポテンシャル(早生樹等)を開拓・利用可能とする“エネルギーの森”実証事業

本テーマでは、2025年10月以降の検証として以下を計画しています。

- ☐ 萌芽更新のしやすさの検証
- ☐ 芽かきの有無による資源量増加効果の検証
※ 右のイメージ図参照
- ☐ 将来林分予測

隣接する皆伐施業地において既に萌芽状況が良好であるエリアが確認されています。そのため、将来林分予測に向けた追加調査を検討し、残り4年間の実証期間でより正確な資源量の把握につなげていきます。



テーマ② 木質バイオマス燃料の安定的、効率的な製造・輸送等システムの構築に向けた実証事業

本テーマでは、2025年6月以降の検証として以下を計画しています。

☐ 広葉樹チップ粒度最適化

① 製造コストの比較

従来の木質チップの製造コストと比較して、チップ選別機使用によるコスト削減率を評価します。

② チップ粒度分布の最適化

基準となる品質規格に適合する様に粒度の最適化を検討します。

③ 再粉碎コストの低減

再粉碎コストの低減による生産性の向上を評価します。



チップ選別機

☐ チップの乾燥技術の確立

① 未利用の温泉熱を活用した乾燥試験

② バイオマスシートを活用した乾燥試験



温泉熱を利用した
乾燥コンテナシステム (イメージ図)



バイオマスシート乾燥

市町村との連携(三者協定の締結)

令和7年5月9日、松川村、極東開発工業株式会社、北アルプス森林組合が、小型バイオマスボイラーを用いた熱エネルギー供給事業を共同で実施する三者協定を締結しました。この協定に基づき、三者で地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく「松川村実行計画」に掲げる目標達成に向けて取り組みます。

熱エネルギー供給事業の概要

森林組合

燃料チップの供給



極東開発工業(株)

小型バイオマスボイラー
の設置、維持管理



松川村(福祉施設)

熱量の購入



木質バイオマスボイラー熱エネルギー供給事業
協働実施に関する協定 締結式



第44回通常総代会を開催しました

去る令和7年5月27日、池田町交流センターにおいて、第44回通常総代会を開催しました。

来賓に北アルプス地域振興局柄沢副局長様ほか8名をお迎えし、出席総代29名、書面出席119名により、令和6年度事業報告及び決算等並びに令和7年度事業計画等について審議いただき、いずれも原案どおり承認・決定されました。

また、役員(理事)の補欠選任が行われました。

(※ 組合員の皆様は、当組合事務所の窓口で総代会資料をご覧くださいませ。)



【令和6年度事業報告】

令和6年度は、7団地の森林整備や公共団体が発注する造林事業・森林病虫害防除事業、木質バイオマスチップの製造販売等のほか、国立研究開発法人の助成を受け、木質バイオマス燃料の安定的・効率的な供給に関する実証事業に取り組みました。しかし、木質バイオマスチップの供給量が計画数量を大きく下回ったこと、県の造林予算の配分が計画どおりでなかったことなどにより、△1,700万円の赤字決算となりました。

【令和7年度及び過去3年間の決算状況】

(単位：千円)

区 分			令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
一 般 事 業	指導部門	収益	115	994	1,696	1,315
		費用	2,043	3,054	2,011	1,926
	販売部門	収益	101,372	50,039	42,823	46,653
		費用	60,205	27,543	31,964	29,252
	加工部門	収益	2,820	17,374	40,146	44,835
		費用	7,410	33,506	43,079	51,088
	森林整備部門	収益	202,830	155,646	263,061	222,387
		費用	148,427	113,837	184,730	177,715
森林経営部門		収益	0	3,643	0	9,999
		費用	589	1,316	18	3,026
事業総利益			88,463	48,440	85,924	62,182
事業管理費			65,388	74,820	74,868	77,778
事業利益 (損失)			23,075	-26,380	11,056	-15,596
事業外損益	収益	1,763	3,280	3,345	820	
	費用	3,731	2,881	2,591	2,588	
経常利益			21,107	-25,981	11,810	-17,364
特別損益	収益	45,071	2,105	300	9,767	
	費用	888,783	100	60	9,612	
税引前当期利益			-822,605	-23,976	12,050	-17,209
法人税及び住民税			-183	-183	-183	-183
当期剰余金 (損失金)			-822,788	-24,159	11,867	-17,392
前期繰越損失金			-172,281	-995,068	-1,019,227	-1,007,360
当期末未処理損益金			-995,069	-1,019,227	-1,007,360	-1,024,752

【販売部門】

収益は前年度より増加しましたが、森林整備が計画どおり実施できなかったことから、計画を下回りました。

【加工部門】

製材は、家具メーカー等との商談を進めたことで、取扱量が増加しました。

木質バイオマス事業は、新たな企業への供給が始まり、供給量が増加しています。

【森林整備部門】

前年度のような大型治山事業の発注がなかったこともあり、収益は前年度を下回りました。

【森林経営部門】

国立研究開発法人の助成事業の実証に併せて、組合所有林を伐採し、木材等を販売しました。

【令和7年度事業計画】

- 1 経営の安定、財政基盤の健全化、経営の可視化に向け、組合員及び地域に信頼、期待される組合活動・事業運営に取り組みます。売上目標を3億3,000万円と設定し、策定したアクションプランにより進捗管理を徹底します。
- 2 令和8年度から12年度までの事業経営計画及び補助金等返還支払計画を見直し、経営の安定と健全化を目指します。また、多額の補助金返還債務が将来にわたる経営安定の大きな負担となっているため、引き続き県に対し補助金返還債務の減免を粘り強く要請するとともに、県以外の関係者への働きかけも視野に入れ取り組みます。なお、計画の見直しや県への提出について、組合員の皆様の判断が必要な場合は、総代会にお諮りします。

森林組合の事業の様子

森林整備事業（松川村有林）

昨年度は松川村において、約8haの樹種転換(皆伐)を実施しました。



作業前



伐採



集材・造材



搬出



地拵え



作業後

森林病害虫

- ・昨年は松枯れ（マツノザイセンチュウ）、ナラ枯れ（カシノナガキクイムシ）の被害が例年より多く発生しました。森林組合では被害抑制のための各種業務に取り組みました。



◎森林病害虫は大切な庭木（松、ナラ）にも加害します。ご心配な方は森林組合へ是非、お問合せください。対策方法についてご相談承ります。

関連事業(SDGs学習旅行)

- ・昨年度も、大町市が企画するSDGs学習旅行のコースの一つとして、森林組合も受け入れを行いました。

昨年度は、管内・県外の中학생や住民の皆様3件の受け入れを行い、日頃見ることがない製材や木質バイオマスチップの製造工程の見学などを通じて、木を身近に感じていただくとともに、森林が果たす役割、林業の必要性を学んでいただきました。



「この一枚がほしかった」ーそんな板材、見つかるかも...

「趣味だからこそ、素材にはこだわりたい。」

北アルプス森林組合で販売する板材は、管内で伐採した広葉樹等を製材し、天然乾燥を行った板材です。

製材担当が、気ままに挽いた、ある意味一点物のラインナップは、ぜひ、組合倉庫で手に取って選びください。

初めての方からベテランさんまで、気軽に使える素材がここにあります。ちょっとした棚作りから、本格的な家具まで。

一見の価値あり。

さて、次の週末は、何をつくりませんか？



組合員の皆様へのお願い

施業の集約化による森林経営計画の策定にご協力ください

当組合では、効率的な森林整備業務を進めるため、施業の集約化を行っております。現在、当管内では大町市、池田町、松川村、白馬村で7団地の集約化が完了し、施業しているほか大町市美麻などでも集約化を進めています。

今後も継続的に森林経営計画の策定に向けて調査を進めてまいりますので、組合員の皆様のご協力をお願いいたします。また、森林整備などのご相談がある方はご一報ください。

組合員の名義変更の手続きをお願いします

組合員がお亡くなりになった場合、所有の山林を相続された場合などは、組合員の名義を変更する必要があります。この場合、名義変更届を相続開始から10か月以内に届けていただくことになります。具体的な手続き等詳しくは組合にお問い合わせください。

相続登記が義務化されました（令和6年4月1日から）

相続人は、不動産（土地・建物）を相続で取得したことを知った日から3年以内に相続登記をすることが法律上の義務になりました。令和6年4月1日より前に相続した不動産も義務化の対象になります（猶予期間あり）。

正当な理由がないのに相続登記をしない場合、10万円以下の過料が課される可能性があります。

ご不明な点は、法務局にお問い合わせください。

今年の新規採用職員、作業員の紹介

昨年12月以降、新たに3名の仲間が加わりました。

内田さん：東京から移住。保育現場で働く緑の雇用1年生。歩荷で足腰を鍛えています。

猪熊さん：横浜から移住。木質バイオマスセンターで重機作業とチップの配達に励んでいます。

嶋田さん：大型車のベテラン運転手。支障木の搬出もおまかせください。

現場で働く仲間が増えてきて頼もしいかぎりです。当組合の働き手はみな、自然に携わる仕事にやりがいを見出し、誇りと責任を持って働いています。



左から猪熊さん、内田さん、嶋田さん

